

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

中野 遙

【所属】(助成決定時)

上智大学大学院 文学研究科国文学専攻 博士後期課程

【研究題目】

辞書史研究のための、キリシタン版語学辞書データの正規化

【研究の目的】(400字程度)

大航海時代にイエズス会によって刊行された刊行物(キリシタン版)の中には、宣教師達が日本語を学ぶ為に編纂された語学辞書が存在する。キリシタン版語学辞書は何れも大部であり、見出し語だけに限ってもこれら三辞書・字書についての総合的な比較・対照を行なった研究は、まだ存在していない。これらの語学辞書がこれまで比較・対照されてこなかったのは、漢字字書『落葉集』(1598)が漢字(ルビ付)表記で、一方対訳辞書の『羅葡日対訳辞書』(1595)と『日葡辞書』(1603)がローマ字表記と、そもそも見出し語同士に「同じ語」を見出す「同定」作業が困難だった事による。本研究では、このキリシタン版語学辞書の全文データ化を行い、見出し語に限らない全文の調査を可能とし、その上で、同時代の日本語・ラテン語・ポルトガル語文献を資料として、厳密に「語の同定」を行なう。それを電子化データとして一定の形式に整備して「正規化」する事によって、キリシタン版語学辞書のもつ語彙を、日本語、又ポルトガル語辞書史の上に位置付ける事を目的としたものである。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究では、キリシタン版語学辞書の全語彙を対象とし、キリシタン版語学辞書の日本語・ポルトガル語・ラテン語語彙それぞれの「同定」を行ない、辞書の電子的データを正規化する事に拠って、辞書相互の関係を計量的に示す事を可能とするものである。これまで、キリシタン版語学辞書間相互を対照して、見出し語の相違を調査する等の研究は殆ど全く行なわれていないが、これは、ローマ字と仮名・漢字による表記の違いや、当時のラテン語・ポルトガル語語釈の難解さ等により、見出し語等の語彙の、どれとどれを「同じ語」と認めるかの「同定」作業が困難であった事に拠ると考えられる。本研究では、キリシタン版語学辞書のひとつである『日葡辞書』(1603)を中心に、次の作業・内容を行った。

- 1) 全文データ(キリシタン版漢字字書『落葉集』、同時代「節用集」類との対照を踏まえた「同定」作業を経た)を用いた、辞書内の構造理解、注記機能の明確化、資料性の再検討。
- 2) 漢字字書『落葉集』「定訓」と『日葡辞書』「訓釈」の対照による『日葡辞書』の見出し語と漢字表記の関係についての考察。
- 3) 『日葡辞書』に先行するキリシタン版単板漢字字書『落葉集』・キリシタン版対訳辞書『羅葡日対訳辞書』、及び、同時代対訳辞書(Cardoso、Barbosa)との注記機能の比較対照。

キリシタン版語学辞書(今回は『日葡辞書』を中心に行った)の全文調査によって先ず各辞書の構造を整理し資料性を捉えた上で、辞書同士の見出し語の有無、語釈の構造、見出し語に対して与えられているポルトガル語・ラテン語の語彙や表現、注記の使い方や使用数を対照させる事により、それぞれの類似点・相違点を明らかにする事が可能になる。これらを通し、キリシタン版語学辞書の流れ、また、同時代の辞書の中で位置付けを明確化する事が出来る。それはすなわち、当時の欧州に於ける日本語学習・日本文化理解の流れを整理する事にも、また、日本辞書史・西洋辞書史の流れを整理する事にもなる。

【結論・考察】（４００字程度）

（なお、ナンバリングは「研究の内容・方法」で示したものと対応する。）

- 1)-1 キリシタン版『日葡辞書』はその用例・語釈中に用いた日本語語彙の殆どを見出し語として立項しており、辞書として「閉じた」性格を持つと言える。
- 1)-2 『日葡辞書』語釈中にはラテン語注記の一つ「id est(すなわち)」が見られるが、「A id est B」の時、原則として、「A:B」=「難:易」の関係となっていると考えられる。
- 2)-1 『日葡辞書』中の注記の一つである「訓釈」は、原則として、キリシタン版漢字字書『落葉集』(1598)に見える「定訓(当時、各漢字に最も定着していた字訓の事)」を用い、語構成に依拠した句の形式を採っている。これは、「訓釈」に見出し語の漢字表記想起の機能があつたためと考えられる。
- 2)-2 『日葡辞書』中には「定訓」と一致しない「訓釈」の例も存するが、何れも『日葡辞書』内で「訓釈」と漢字表記とが一定の対応を見せており、「各漢字と定着している読み」が用いられている点では矛盾せず、『日葡辞書』の背景に漢字表記の理解がある事が明らかである。
- 3) 『日葡辞書』中で用いられているラテン語注記(id est、vel、idem、item、¶、Vt 等)は、他の同時代対訳辞書(『羅葡日対訳辞書』や Barbosa、Cardoso)での同注記の機能を踏襲したものとはいるが、『日葡辞書』での各注記の使い分けは他の辞書と比しても厳密であり、『日葡辞書』の注記の特徴の一つとして指摘される。